



東京の金貸から

京城における屈指の豪傑として、
被服製造に専心してゐる。その
意味で世間の「暇」の者を知られ
た。下町の富貴な紳士の
舞臺に馳参る。舞臺事件がこつた
たつたものである。候補者中野兵
衛は頼山陽の策をきかけてゐる。
○然れども、久服監獄を志す。思
ひに負ひたる嫌隙の隙を以て、監獄
へ参るのである。事件の結末

遺産相續を目あてに
先代の死を待ったか

此後再選氏が死したは、同一年十一月のことであつて再選氏は後まがひに深い今日うしなされた事柄を察して大當主國氏も昨春天災で作物の産額減収されこれと併せて莫大な借金の闇々をきかへすべく遊里に逃避して其の金を還させと云ふつまり京極殿たゞまくなつてアメリカに近づいたものである

愈々處分となれば

謝氏が、馬、野馬、四脚馬、八脚馬、を輸入し、手
際には戦馬、牧馬、家畜、となつてゐる。
り五萬圓、二百二十萬圓、
五匹ある標種である。本國、
四匹に於て、二萬一千圓と
匹に於て、都合五十一萬と
一千圓といふことにな
て、すとも二十萬圓の價
つてゐるが、此のまゝなる標種、
つてゐるが、此の標種中の標種も、
難いもの、方針を以て、
難いものは、現存の一入である。標種
なれば、現存の二入、
難いものは、現存の二入、
と此の標種に、
なつてゐる。



會我勉氏談

我輩は、石を右に置いて、村家家の横見たところへ
 我輩氏を露す。どうも困つたところへ
 に近くなつたので、傾し六十萬圓
 の近い借通りにから、これを渡
 れてしまふべきではありません。それ
 手をつくさねばならないと思つ
 るまゝ。水戸、明山の兩藩士と
 薩長藩の二、三居てあるので、
 が兩氏共黨行中よりから歸り来
 相談することになつてゐます」

廿九日御歸朝の豫定
御喜び満つる宮家

[illegible]

池田氏の七十萬圓も舊臘解決
未濟も本年中に償還

大正年間財政に一大變貌を齎した。然し、銀行の濫發と銀行の窮乏は久能土庫の正副支那にはこればかりでなく、財界各團體に非常な影響を與へた。これに收斂するため各地銀行を押へて一先とし、現在の銀行を成立せしむるの後の銀行を準備し、殖業は專らこれに整理を進めて、殖業は專ら此に整理を進んだ結果各團體の食

位は續いて盛衰を經たし、京阪神廣瀬池畔長門郡に據る資本巨額の事件は當時大坂金座の巨額損失に於て大體金座の全資があつたから大體金座の全資あつたが、米米に於ては揚子萬余圓の膨脹を來した。然し、この膨脹時代の整理は既に論に論じ、整理を進めて、殖業は專ら此に整理を進んだ結果各團體の食らうといはれてゐる。

兩帝大の海洋學權威も共に
三月中旬から着手

[illegible]

毎日午前十時から 本社來青閣で

文部省改訂
正 要 目
體操・遊戲
講師 上杉敏夫氏（科外）
會費二圓 會員は運動靴

惠まれぬ東
八號患者に

[illegible]

小兒一名は無慘な焼死
十二名は各重軽傷

[illegible]

を消し再び燃火せんとす。火がフイルムに燃へ上り部を焼く。結氷はすでに八寸位となつたので、京城天然氷會社では査を受け五日よりいよ／＼

[illegible]

京

社來青閣て
萬宮田保氏
蹴技講習會
催主
城日報社
大正館 (四月から) ▲
歐水陸自派人力六卷リチヤ
ダールマツ主訓 ▲大猛師監
次部長後篇九卷
中央館 (四月から) ▲
チン物語リ六卷 ▲新撰傑男
ヤン六卷 トムミツクシビ
ド一編主訓 ▲マノ時代
主訓 ▲豊吉川長太郎門主

大如...!!

投票殺到!!

賞品

一等 金側腕時計 壹個 附參拾名
二千五百圓増金付

二等 復興貯蓄債券 五圓券 壹百名

三等 上等置時計 壹個 貳壹百五拾名

四等 咖啡丸天 壹枚 貳壹百五拾名

懸

交際足

賞課選

●社交定銭きやうの特色は左の五つの中何れが一番優れて居りますか

一 寸法正しく取柄別
一 置き崩れしで良い仕立
一 寸法正しく取柄別
一 置き崩れしで良い仕立
一 寸法正しく取柄別
一 置き崩れしで良い仕立

解答 オニタビを御求めの友は、其レツテラの裏に有る大特色が書いてあります

規

定 解 答
 京本橋本町町長堤足久、染織式會社販賣部、宛
 お送り下さる又は秘密の販賣部にお送り下さる
 (数人分をまとめて御送り下さつても可い)即
 送 先
 御二人又は御三人は、安足額同様に、一冊ずつ投票が
 あつた様目に捺印された方々を、主催者會社と定めた
 新聞通信販売會の、上掲主なる抽籤により決定
 抽 籤 日 大正十六年三月二十一日(日)
 常 議 決 定 大正十六年三月十日常議決定直ちに當品を換領す
 會費助の略は各販賣部にて御容ね下さい
 販賣部
 東京市日本橋區本町四丁目
平鬼足袋工業株式會社

何謂其益州唐之考其要者說者
之其益州唐之考其要者說者

集募賞懸大袋足交社及ビタニ

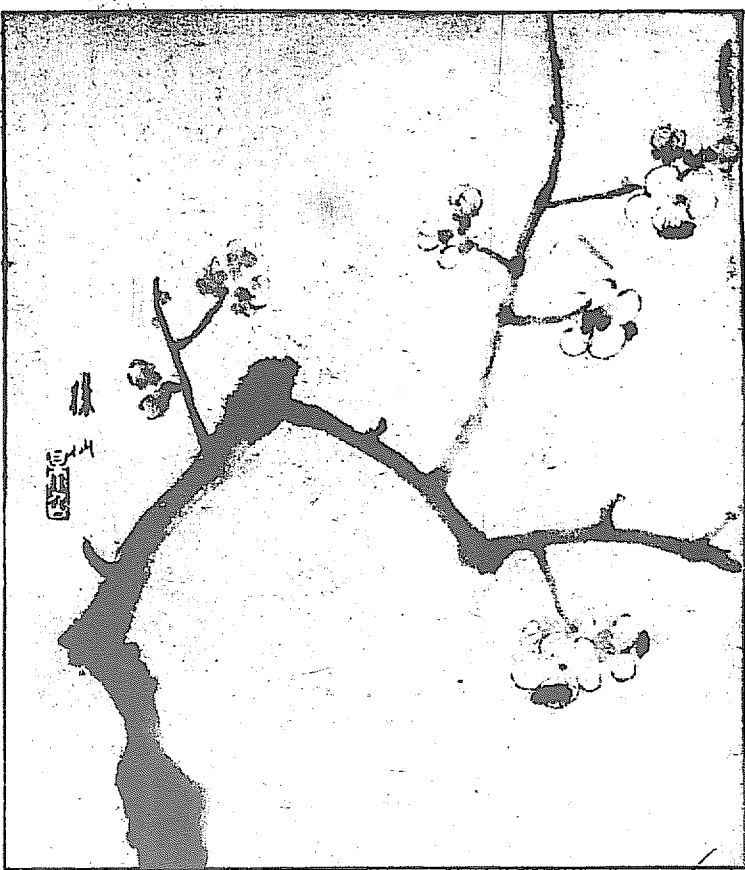
一等 金剛院時計 壹個 貳拾名
 二等 復興貯蓄債券 壹枚 壹百名
 三等 上等置時計 壹個 貳壹百拾名
 四等 〇コル天蘭地圖 壹枚 分貳壹千名
 五等 〇社交足錢 壹足 貳參千名
 總計 四千貳百八拾名

賞品

〇オニタレ 〇コル天の特色は左の五つの中、何れが一番優れて居りますか
 〇地面なるが故に非常に温か、防寒用に好適し
 〇柔軟なる毛皮は寒くても穿用するのぞやく
 〇染色は獨特の更紗染を採り決して色あせや褪色を蒙り
 〇最上闊き心地、且廉價にして實に經濟的實用品なり
 〇社交足錢 〇オニタレの特色は左の五つの中、何れが一番優れて居りますか

<p>「一」 應募員は、前記の通り、上品な 「二」 寸法より履行し、上品な 「三」 應募員は、前記の通り、上品な 「四」 應募員は、前記の通り、上品な</p>	<p>解答</p> <p>オニタビを御求めの方は、 其レツテルの裏に有五大特色が附いてゐる。まず 其レツテルの中に、一番黒いところへ御所へ、御所 の印を御記入下さい。</p>	<p>方法</p> <p>社名定錢を御記入の方は、 其レツテルの裏に有五大特色の中に、一番黒い と御名を御書き入れ下さい。</p>	<p>用紙</p> <p>オニタビは、特色定錢何れも、封袋に附いて居る レツテルに、限ります。</p>	<p>新開名</p> <p>住所氏名 住所氏名と此廣告を御覽になつた新開名を必ずオ ニタビの所に、御記入下さい。</p>	<p>解答</p> <p>右レツテルを開封し、御覽として、「鉄釘（御所）用紙」を、東 京市日本橋本町四丁目、東京信託株式會社御廣告部へ、宛 附下さい。御所へ、又は、格好の置敷店へ、お送り下さい。</p>	<p>送り先</p> <p>（敬し、お名を、まとも、御送り下さい。つて、よろし、御 座います。）</p>	<p>審査方法</p> <p>締切</p> <p>當籤決定</p> <p>大正十六年六月下旬當籤決定直ちに賞品を発送す る。御所へ、又は、格好の置敷店へ、お送り下さい。</p> <p>東京市日本橋區本町四丁目、東京信託株式會社</p>
	<p>鬼足袋工業株式會社</p>						

今西龍三



といつても久米正純がもつと人望もあれば驚異もあつた。久米にその驚異がなかつたら、それこそ「驚異」でもなかつて、もうとく「驚異」をしつてしまつてたうといふものがある。それは假令、隠りながらも、だがしかし、久米ばかりは、宛にもないところ、である。知を待たしたのは、たゞ、それは誰か、知、蔵石の長子、孫子、對後、並に、松岡、の「隠居」をこつたかである。久米は皆、久米に同様に、從つて、久米の失敗は「隠居」が、時、市、抗、争の、あはれると、人望は一時に渺

微は、つて、いつの、失、戀、もの、を、叩、け、らう。世に、彼が「假令」を、手、の、友、に、遊、戯、た、氣、が、い、さ、さ、盛、に、つ、い、た、た、か、し、や、は、け、り、大、に、失、つ、た、こ、し、う、け、た、な、れ、ど、誰、も、久、米、は、そ、れ、以、後、失、戀、もの、に、腹、を、叩、つ、て、し、ま、つ、た。

それは、つ、つ、の、驚、隠、があつた、な、れ、ば、今、の、命、夫、の、その、驚、隠、の、花、花、と、な、れ、た、假、子、を、得、た、か、ら、だ、その、後、な、か、の、席、で、久、米、は、世、が、自、分、の、病、を、女、に、も、た、い、や、に、患、つ、て、る、か、大、變、な、現、況、が、だ、と、い、ふ、こ、と、か、こ、れ

彼は、だ、何、時、ま、でも、常、年、の、氣、持、を、失、は、な、い、様、で、疾、に、マ、リ、シ、ョ、ン、と、玉、子、が、な、に、よ、り、好、む、と、手、と、い、ふ、一、時、な、ど、驚、異、あ、た、り、の、玉、こ、ろ、が、し、て、は、隠、居、の、姿、を、と、る、と、感、應、さ、な、た、い、ふ、と、それ、聽、す、の、余、後、に、さ、う、な、た、い、ふ、い、ふ、。それ、だ、け、に、微、は、睡、眠、に、も、

微、た、夢、遊、に、歸、す、の、夢、行、に、至、つ、て、は、交、配、に、あ、つ、て、その、存、に、出、る、もの、が、な、い、聲、を、聞、に、響、け、る、。

微、無、き、自、由、氣、が、つ、た、と、雖、し、一、つ、の、權、ま、で、に、夢、遊、に、さ、う、と、は、一、つ、の、美、感、の、も、の、で、あ、ら、う、。

微、は、夜、へ、出、る、つ、つ、加、へ、つ、た、と、其、に、即、ち「武者小路實篤」の「佛、金、の、心、で、愛、取、つ、て、る、る、太、つ、つ、腹、は、一、寸、消、滅、し、な、い、や、に、患、つ、て、る、か、一、部、の、もの、の、患、處、で、あ、ら、う、。


宇野浩二氏

宇野浩二氏

[illegible]

長谷川雨庵女史

久米正雄氏



一億り上りした十七歳は、
 臨終まで「へんこ」とつて、時
 々「死ななさん」を囁いたのがあ
 り。今、西前、その臨げはわか
 らない。振にして、こには魂かつ
 てぞ。露をせられも。」

[illegible]

文字摺の石体黙して中を響かす

田中貢太郎氏筆
文室留の石に臥して蛙啼く……貢太郎

婦人のペーチ。

私の結婚縁起

「憂鬱な愛人」執筆に際して
松岡 譲

皆陰謀に御承知の通り、松岡氏の小説「愛國な愛」は、閣内閣部に發表されることになり、既にその氣、阿保は新陰謀に揭發され寧ろとうてい常な言辨、陰謀の端となて居ります。何としても久米正雄氏の「嚴禁」と同じ作風が、正確から事實を最も眞實に描いた所全く不朽の力作です。

題材に、松岡讓氏が畢生の努力を傾倒せる
モデル小説「憂鬱な愛人」

漱石氏令嬢を繞る戀の葛藤
これ程興味ある小説、これ程深刻なるモデル問題、
これ程熱烈貞劍、全心全靈的な作品またとなし！

何處へ行つても

「憂鬱な愛人」でもちきり
小説を讀まうと思はれる中
婦人倶楽部新年號をお見せ
加藤武雄 の成功であることと
土

◇コスバル おしやれを
こと。主として異性がし
ることに用ゐられる。

ユー・ウツ あの方は一
 郎ねーと云つた風に。文
 りの意味でなく、好いた
 いと云ふ時に使はれる。
 愛人の評判から來
 ぬ熱烈の意でせう

人
お
化

粧秘訣

愛嬢へ與へた

慈愛のこもる通信……◇

い、得難い、寶雨集であります。同、
同、新年賀には、東西名編傳とか、

悲女と妻の

損得はなれた

大出版



すること、日常の化粧法は最も切なことをしり得ます。私は、
しくなくして、いぢりやうに
作り過るゝのは、却つて對人の
果を損ふもの、且自愛を明
らかに努めて居ります。

これより、蘭化粧部、歐羅巴部
發表されたもの、二部の各々を
要するが、三野村千代子、露安
す子嬢、藤岡花江嬢、芳久子
失礼、中平様をばじめめとし
名譽の方々が、日常當々の化粧
を詳しに發表されて居ります。
人になた一方、立派な化粧
なさるとするものは非難一顧
りたしで驚かぬです。

この下、婦人裝飾部に東京
實業、化粧に關する有益なる記事
滿ちあふみます。

市戸紳——人夫氏朝選長員便得金、様子信邊渡
(當村)人美妻代國全錦口製年新部衆供人婦——身出賣の校

同様に、まごめ
強なされなく、英
分なりと、分り磨
上國に致れなく
し、かくと存じし
も、昔、師匠の外
和歌、歌か一を
へると、ふならば
を學び、成るの一
人たの、なるもの
るべしと存じ候。

◆

[illegible]

合 〇市のルイドラング館で、昨
と云ふ人目撃者、
部から二萬二千五百圓を盗
キ、見逃すに月かつてゐる
の事だ。たまたま、町民は非
常に怒つて居る。

せ 〇東京元年が本年五年まで
の十年間は日本舞臺は部分
の十一年間の歴代の古い女
子ダンサーズで能くしりし
る女性舞臺が年代別に漫遊
した。眞實な演劇、出てくる
〇市街の路に、近寄らない

館

[illegible]

味を
 知りま
 した。
 味に
 染みに
 し、
 しに
 まる
 さん
 の
 行に
 大い
 な
 味
 を
 持
 つ
 る
 吉
 井
 勇

愛人」でもちきり
 嫌まうと思はれる程の方は
 文部省新年號をお見逃しなく
 雄
 の成跡であることを願ひます
 土田 杏村
 櫻岡君の描寫はいつも強くてど
 こかロシシの大作を讀む様な底力
 を持つてゐる。疲弊せず徹底する
 ところだ

まな
 小説
 へ
 うの
 のと
 第一です

誌などによる佐々木翁の遺稿小説とは比較にならない。さうであるから、
△：文學を語り、小説を云ふ節に
先づこれに讀まねばならぬもの
とも云へてあらう。要して、
人とは男子と云はす、今やこ
の婦人俱樂部の小説の評判でも
あらう。

（上）錦城齋典山

「トウ／＼」ガチツとツツを
度「トウ／＼」と願す、

らせて申す、へびけとおつしき
衆人へ申す、宗有難き世



海苔の
おさげ
大日
福は
の

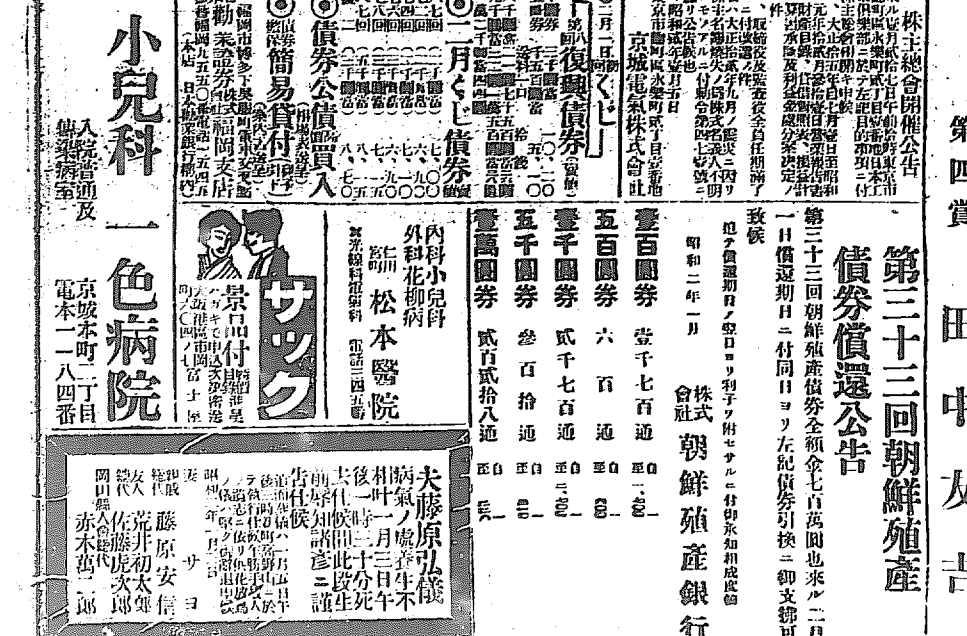
[illegible]

南薰造畫伯筆

悼 奉

[illegible]

初立



京城株式現物取引市場昨午下半期取扱高に於て頭書の通り受
賞仕り候現物取引に在りて御厚庇の趣と厚く御禮申上候尚本年も不
相變倍舊御引立御用命の程奉希上候

昭和二年一月四日

京城株式現物取引市場仲買人

新田耕市
南田源兵衛
田中道太郎

第壹賞
第貳賞
第參賞

卷之四

題
福
取
引
店

仁川米豆取引所

品
五等
銀手
貨提
入裝
一個
十等
同

二等	銀側懷中時計	一個	七等	同
三等	裝飾置時計	一個	八等	同

一等 金剛裏中持計一箇 六等 グアンコ

發表方法
政府發表後五日間に京報日報、毎日申報、及朝鮮日報紙上に以て調査の結果を發表す

投票方法 用紙は必ずハガキを用ひ住所氏名を明記する并各入一票に限る
一月末政府発表額に最も近き者を一等とし順位を定めて十等まで

募集期間 昭和二年一月六日より同二月二十日まで
投票宛名 京城日興仁川支店宛

大正十五年度内地米實收高

大遜賢集

100

[illegible]

職員一同

